

# 地域医療連携だより

vol.11  
2020.6

## 進歩し続ける脳血管内治療

開頭しないカテーテルでの脳血管内治療は近年めざましく進歩しています。

京都岡本記念病院は本年4月に脳血管内治療センターを開設し、センター長に中澤拓也医師を迎えました。脳神経外科と一体で治療にあたります。

### 京都岡本記念病院 脳血管内治療センター

センター長 中澤 拓也



#### —脳血管内治療の利点とは？

低侵襲で入院期間が短くなり、患者さんの負担が軽くなるのが一番の利点です。

また、脳の深部へは、開頭手術で周囲を損傷せずに到達するのは困難です。そのような場合はカテーテルを用いたアプローチが有効です。さらに、症例によっては局所麻酔でも治療可能な場合があります。全身麻酔が危険な高齢者や、心臓に疾患のある患者さんについても、治療が可能かどうか、一度ご相談ください。脳血管内治療センターでは、脳神経外科、脳神経内科と連携を密に、開頭手術、脳血管内治療などの適否を検討させていただきます。

#### —対象となるのは？

脳血管内治療では、脳梗塞に対する血栓回収術、脳動脈瘤に対するコイル塞栓術、頸動脈狭窄症に対する頸動脈ステント留置術、動静脈奇形の塞栓術が主なものととなります。

なかでも最近、注目されているのは脳梗塞に対する血栓回収術です。脳梗塞には、t-PA静注療法(血栓を溶かす点滴治療)も普及してきましたが、発症から4.5時間以内の投与が必要であり、また、内頸動脈などの太い血管の梗塞には効果が期待できないことが課題でした。内頸動脈などの大きな脳血管に有効なのが血栓回収術です。鼠径部から血管の詰まったところまでカテー

テルを挿入し、血の塊を回収します。回収するステントやカテーテルなどの機器は年々改良され、t-PAの単独治療と比較しても、より良い治療成績を出せるようになってきました。

血栓回収術が有効なのは脳梗塞発症から原則8時間以内とされていますが、それ以上経過していても有効な場合があることも証明されています。しかしながら早ければ早いほど救われる人は増え、遅れるほど社会復帰の可能性が低くなります。症状が現れば、躊躇なく救急受診をすることが重要です。

#### —京都岡本記念病院での抱負を。

脳血管内治療が行われるようになって25年以上、海外や大学病院で2,000例を超える経験をしてきましたが、同時に開頭手術にも携わっております。これらの経験から得た技術を後進の育成に生かしたいと考えています。

脳の治療は機器や薬剤の進歩で、目覚ましく発展し続けています。探求心に支えられ研究を続けていることが、治療の選択肢を広げ、ひいては地域医療への貢献となると考えております。

### 4月 新規開設・新着任

#### 京都岡本記念病院 脳血管内治療センター



センター長  
中澤 拓也 なかざわ たくや

滋賀医科大学卒 (昭和57年)

- ・医学博士
- ・日本脳神経外科学会脳神経外科専門/指導医
- ・日本脳神経血管内治療学会専門医/指導医
- ・日本脳卒中学会脳卒中専門医/指導医
- ・日本脳卒中の外科学会技術指導医
- ・臨床研修指導医

京都岡本記念病院は、日本脳卒中学会から「一次脳卒中センター」に指定されています。脳血管内治療センター、脳神経外科、脳神経内科が連携し、t-PA静注療法、脳血管内治療、開頭手術まで対応しています。



脳神経外科・脳血管内治療センター



社会医療法人岡本病院(財団)

京都岡本記念病院

〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山西ノ口100番地

地域医療連携室

TEL 0774-46-5981 (直通)

FAX 0774-46-7835 (直通)